

平成20年度病害虫発生予報第10号

平成20年12月4日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
野菜	ラッキョウ	白色疫病	平年並	平年並
	イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並
		灰色かび病	平年並	平年並

気象予報（抜粋）

1か月予報（11月29日～12月28日：11月28日、広島地方气象台発表）

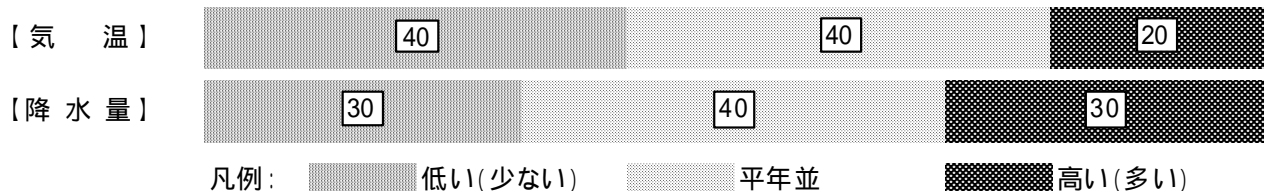
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

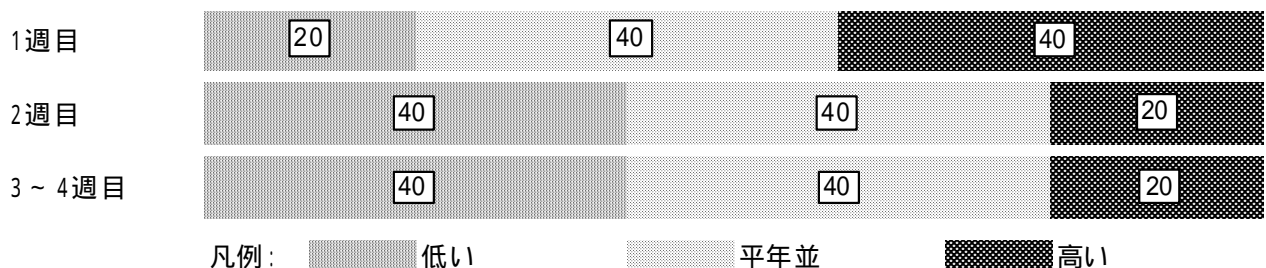
向こう1か月の気温は平年並または低い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%、2週目、3～4週目は平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野 菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部及び中部の現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、発病前の10月、11月、12月の毎月1回の予防散布が効果的である。12月中旬にはリドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、カーゼートPZ水和剤600～800倍液のいずれかを散布する。

イ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを散布する。

ウ 前年に発生が多かったほ場では、土壌中の病原菌密度は高いと考えられるので、ほ場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に予防効果主体の薬剤を使用する。

イ 既に本ほ場で発生している場合は、治療効果のある薬剤を7日間隔で輪番散布する。その後、病徴の進展が抑制されれば、予防効果のある薬剤防除に戻す。

ウ ストロビルリン系の薬剤は、浸透性を高める効果のある展着剤と混用すると薬害がでやすいので、これらの展着剤は加用しない。

エ EBI剤を使用する際は、耐性菌の発生を防ぐために、カリグリーン、ジーファイン水和剤などを混用することが望ましい。

オ 薬剤防除は、葉の裏や芽の間にも薬液がよくかかるように、丁寧に散布する。

カ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の主要防除薬剤

農薬系統分類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数	効果	
					予防	治療
無機硫黄	サルファグレン	0.10 g / m ³	-	-		
有機銅	サンヨール	500 ~ 1,000倍	6	前日		
アクリル・リジン系	フルビカフロアブル	2,000 ~ 3,000倍	3	前日		
	フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日		
グアニジン系	ベルコート水和剤	4,000倍	2	前日		
グアニジン系・ヒドロキシアリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日		
アズライド系	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日		
ストロビルリン系	アミスター-20フロアブル	1,500 ~ 2,000倍	3	前日		
	ストロビ-フロアブル	3,000 ~ 5,000倍	3	前日		
E B I 剤	ラリ-水和剤	4,000 ~ 8,000倍	3	前日		
	ルビゲンくん煙剤	40g/200m ³	3	前日		
	ハイクラール水和剤	5,000倍	3	前日		
	トリフィン水和剤	3,000 ~ 5,000倍	5	前日		
	トリフィンジ-ット	50 g / 400m ³		前日		
	スコア顆粒水和剤	2,000倍	3	前日		
	ハノンTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日		
キノキサリン系	エレスタン水和剤	3,000 ~ 4,000倍	2	前日		
脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300 ~ 600倍	-	前日		
無機化合物	ジ-ファイン水和剤	750 ~ 1,000倍	-	前日		
	カリグリーン	800 ~ 1,000倍	-	前日		
	ハ-モイト水溶剤	800 ~ 1,000倍	-	前日		

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少ないため、発生が多くなるのは平年並の3~4月頃と予想される。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯葉や病果は早めに除去する。

イ ハウス内が20 前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 薬剤防除は、表2を参考に各薬剤を7~10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の主要防除薬剤

農薬系統分類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
有機銅	サンヨール	500倍	6	前日
アクリルピリミジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
	フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日
ジカボキニミト系	ロフラル水和剤	1,500倍	4	前日
	ロフラル500アクア	1,000～1,500倍		前日
	ロフラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
	スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
	スミレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
アズライト系	カンタストライフフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
ストロビルリン系	アミスター20フロアブル	1,500倍	3	前日
フェニルピロール系	セイバアフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
フェニルピロール系・ ヒドロキシアニリド系	ジャストミート顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
グアニジン系・ ヒドロキシアニリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.famic.go.jp/>)

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、
周辺への飛散には十分注意しましょう。**

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、病害虫の診断方法や発生予察方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回の予報発表は、2月5日(木)の予定です。